

平成 21 年度金沢大学法学類（人間社会学域）入学者選抜試験（後期日程）

小論文 問題，出題趣旨及び講評

試験期日 平成 21 年 3 月 12 日（木）9:30～12:30

I 出題は，武田邦彦『リサイクル幻想』（文春新書，2000 年）176 頁 7 行目から 181 頁 15 行目までに対する問いという形式を採った。

(1) 下線部①（179 頁 10 行目）において原子力論争が不毛であると筆者が述べる理由を説明しなさい。（250 字程度）

解答例

人類の活動を制限するものは、「太陽の光の量」と「遺産」と「核融合」しかなく，核エネルギーの利用を放棄するという事は，太陽の光が与えてくれる生活以上を望まないことにつながる。

しかしながら，原子力論争といわれるものは，石油その他の「遺産」がまだあり，これを活用できるということを前提に行われることが多く，継続可能な人類の活動に関する議論となっていない。

そのため，行われている議論は，原子力の安全性に関するものに限定され，人類の活動の永続性に関するものとなっていないためである。（237 文字）

(2) 下線部②にいう「地球環境的」に考えるとどのようなことか，説明しなさい。（250 字程度）

解答例

「地球環境的」に考えるとは，自分が注目し意識している一つの対象（「系」）の能率を高めることのみを考えるのではなく，その対象と他の対象とが存在する大きな環境が存在することを意識することである。これにより，一つの対象の効率化がそれを含む大きな環境の中にある他の対象の効率を下げることになることを理解できるようになる。

具体的には，クーラーを使用している室内は気温が下がるという意味で効率化が行われているが，その外に熱い空気を排出することで室外の効率を下げていくという例が，上記の問題を端的に説明している。（249 文字）

（ここでは，文中にあるクーラーの例もしくは新幹線の例を上げることで，部分（系）と全体の関係を理解していることを具体的に示すことができれば良い。）

(3) 引用文全体を読んで，そこでいわれる持続性社会との関係で筆者がリサイクルをどのように捉えているか，を論じなさい。（800 字程度）

解答例

筆者が考える持続性社会とは、活動するために必要な物質とエネルギーを人類が使用できる範囲に押さえ、これを継続していくというものである。

そして、人類が活用できるものとしては、「太陽の光」、「遺産」、「核融合」しかなく、「核融合」の利用への合意がないのであれば、「太陽の光」の量以下に人類の活動は制限されなければならないというものである。

しかしながら、現在行われているリサイクルは、「物質供給と活動量の関係」を理解して行っているとは思えない。

なぜなら、社会システムとしてのリサイクルは、特定の物質のリサイクルには役だっても、そのために投入される別の資源が必要であり、全体としての活動量を増やし、そのために物質供給も増やしており、物質供給量を減少させながら活動量を増やすという結果にはつながっていないからである。

このように、現在のリサイクルは、持続性社会との関係では、全く意味のない活動であると筆者は考えている。(402文字)

解答上の注意

上記のように 400 字程度でも、十分な解答を行うことはできる。解答のポイントは、まず「持続性社会」という言葉を見つけ、これが文中でどのような意味で使われているかを確定することにある。類似の言葉として循環型社会という言葉も使われており、自分なりに整理・要約することが求められる。次に、リサイクルというものを筆者がどのような点から論じているかを把握することが求められる。筆者がリサイクルのどのような点を問題にしているかを把握できれば、持続性社会との関係が確定する。

このように、問い(3)は、本文の正確な理解を問うことで読解力、論理力を試すことを目的に作成されている。したがって、文中にあらわれていない事実・情報を盛り込むことは解答の上で不必要である。

評価できない答案としては、以下のような例があげられる。

- ①筆者がどのように捉えているかを論じなさいという問いであるのに、「自分はこう考える」や「リサイクルはこうあるべきだ」と述べているもの。
- ②リサイクルに関して、自分の知っている例をあげて問いから離れて論じているもの。
- ③筆者の考え方が良いか悪いかを論じているもの、等。

Ⅱ 以下の資料を参照しながら、次の問いに答えなさい。

(出典：資料①「平成 19 年版 国民生活白書」第 2 図 (4 頁)，②第 3-1-1 図 (129 頁)，③第 3-1-8 図 (134 頁)，④第 3-1-9 表 (135 頁)，⑤第 3-2-2 図 (152 頁)，⑦第 3-2-4 図 (154 頁)，⑧第 3-1-2 2 図 (145 頁)，⑩第 3-2-1 2 図 (162 頁) および⑥「平成 18 年版 厚生労働白書」図表 1-3-10 (47 頁)，⑨図表 1-3-14 (51 頁))

(1) 資料②③④は、「職場における人とのつながり」に関する調査結果を示したものである。これらを含む資料①②③④から、どのようなことが読み取れるか。200 字程度で述べなさい。

(2) 資料⑤⑥⑦⑧⑨⑩から、(1)において資料①②③④から読み取った内容の背景・原因としてどのようなことが読み取れるか。250 字程度で述べなさい。

(3) 資料①～⑩を参考にしつつ、(1)(2)であなたが分析した現状について、あなた自身の立場から評価をしたうえで、あなたの考える、よりよい「職場と個人をつながり」を達成するためにどのような方策が必要か、800 字程度で述べなさい。

出題趣旨及び講評

(1)の問題は、資料から、一方で心の豊かさや良好な人間関係を重視しながら、他方で職場における人とのつながりは希薄化しているという一見すると矛盾するかのよう傾向を見て取れているか、そして、このような状況をどのように理解することができるかを問うものです。表やグラフで示されている事実を単に文字に置き換えたような指摘ではなく、そこからさらに一定の分析を行い、統合的な理解を示そうとしている答案が高く評価されます。

(2)の問題は、(1)で各自が解答した内容を前提に、資料からその原因・背景としてどのようなことが考えられるかを読み取ってもらおうというものです。ここでは、資料から読み取れる内容の指摘だけではなく、(1)の解答で示した内容と統合的な説明となっているかということが重要な採点上のポイントとなります。したがって、資料自体の分析としては優れた指摘であっても、(1)の解答と矛盾した内容となっているものは、低い評価となります。

(3)は、(1)(2)の現状分析を前提としたうえで、各自の立場から、よりよい「職場と個人をつながり」を達成するための方策について、比較的自由に論じてもらおうという問題です。採点のポイントは、第一に、(1)(2)で分析した現状をきちんと踏まえたうえで、一定の立場からの評価が明確に示されていること、第二に、各自の考えるよりよい「職場と個人をつながり」とはどのような内容かが明確に意識化されていること、第三に、各自の考えるよ

りよい「職場と個人とのつながり」を達成する具体的な方策が明示されており、かつ、その方策が各自の考えるよりよい「職場と個人とのつながり」の内容と整合的なものとなっていること、などです。

これらのポイントは問題文自体に示されているものといえますので、いくら第二、第三のポイントについては優れた答案となっていたとしても、第一のポイントについて言及していないものは評価が低くならざるを得ません。また、本問で最終的に論ずべき内容の重点は第三のポイントにあるので、第一、第二のポイントについて優れた分析をしていたとしても、第三のポイントについての論述が不十分な場合には、やはり低い評価となります。